

令和6年度 年間文学講座

趣旨	古典文学と近現代文学、山梨の文学について、第一線で活躍する研究者や当館学芸員がわかりやすく解説します。
受講料	無料
定員と会場	講座1,2は100名。講座3は60名。(要申込。) 会場は研修室です。
確認事項	本講座はキャンパスネットやまなし及びことぶき勸学院連携講座です。また、諸事情により、開催を延期(または中止)する場合があります。ご来館前に当館ホームページでご確認いただくか、当館までご連絡ください。
申込	すべての講座において、電話でお申込 ください。(年間を通してのお申込もできます。)4月20日(土)～受付開始。
問い合わせ先	山梨県立文学館 甲府市貢川1-5-35 TEL 055-235-8080

講座	講師	日程と講義内容	
講座1(全8回) 藤原道長と紫式部のライバルたち —大河ドラマの世界を同時代の史料と文学作品から読む— 14:00-15:30 文学館研修室	池田尚隆 山梨大学 名誉教授	1	6月8日(土) 藤原道長の父兼家とその子供たち
		2	7月6日(土) 藤原道長の兄道隆とその息子たち
		3	8月10日(土) 藤原道隆と娘の定子
		4	9月14日(土) 藤原道隆の息子伊周と貴族社会のあつれき
		5	10月12日(土) 藤原道隆の死と中関白家の没落
		6	11月2日(土) 藤原道隆死後の藤原定子と一条天皇
		7	12月7日(土) 藤原定子と藤原道長の娘彰子
		8	1月25日(土) 清少納言と紫式部
講座2(全8回) 健全と不健全のあいだ —日本近代の犯罪小説を読む— 14:00-15:30 文学館研修室	古川裕佳 都留文科 大学教授	1	5月21日(火) 志賀直哉「范の犯罪」
		2	6月18日(火) 志賀直哉「濁った頭」
		3	7月23日(火) 菊池寛「ある抗議書」
		4	8月20日(火) 芥川龍之介「二つの手紙」
		5	9月3日(火) 芥川龍之介「或旧友へ送る手記」
		6	10月8日(火) 谷崎潤一郎「途上」
		7	11月12日(火) 谷崎潤一郎「白昼鬼語」
		8	12月17日(火) 木々高太郎「文学少女」
講座3(全4回) 作家と作品 14:00-15:10 文学館研修室	当館学芸員	保坂雅子	1 6月2日(日) 資料からみえる中村星湖の人と作品
		高室有子	2 8月12日(月) 作家が描いた甲州の“食”あれこれ
		中野和子	3 10月6日(日) 金子兜太展のみどころ
		伊藤夏穂	4 11月10日(日) 生誕120年 四尾連湖畔の詩人 野沢一

※来館される時のお願い

- ・受付は13時より行います。
- ・発熱や咳などの風邪症状、呼吸器症状など体調に不安のある方は、当日の来館をご遠慮いただいております。ご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

講師紹介

年間文学講座1 池田尚隆（山梨大学名誉教授）

1954年、三重県津市生まれ。1982年東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程博士課程退学。同大助手を経て、1986年から2022年3月まで山梨大学に勤務。平安文学専攻。歴史物語と漢文日記（古記録）を中心に研究している。

1985年から27年をかけて完成した『御堂関白全註釈』（16冊、思文閣出版）では、編集メンバーの一人として、編者の山中裕氏に協力した。編著書に『藤原道長辞典 御堂関白記からみる貴族社会』（共編、2017年、思文閣出版）、著書に『新編日本古典文学全集 栄花物語①②③』（共著、1995～1998年、小学館）。

1990年、初年度の山梨県立文学館年間文学講座の講師を務め、その受講者の方々と始めた読書会「源氏の会」は今年で34年目を迎える。同講座の講師は2011年～2015年、2022年～務めている。

年間文学講座2 古川裕佳（都留文科大学教授）

都留文科大学国文学科教授。博士（文学）。東京大学大学院博士課程修了。日本近代文学専攻。とくに志賀直哉を中心に大正・昭和期の小説を研究している。

著書に『志賀直哉の〈家庭〉女中・不良・主婦』（2011年、森話社）。共著に『ケアを描く 一育児と介護の現代小説』（1999年、七月社）、『森鷗外論集 彼より始まる』（2004年、新典社）、『〈介護小説の風景〉—高齢社会と文学』（2015年、森話社）、『文科の継承と展開』（2011年、勉誠出版）など。

作家が自らの身近に材を求めた私小説と言われる作品から、日本近代における家庭の姿を読み込み、そこでどのような夢や欲望が描かれたかを検討している。2018年と2023年にも同講座の講師を務めている。